

## 様式第十八の四（第11条の3第3項関係）

### 認定事業適応計画の概要の公表

#### 1. 認定の日付

令和4年9月16日

#### 2. 認定事業適応事業者の名称

株式会社ミットヨ

#### 3. 認定事業適応計画の内容

##### (1) 事業適応に係る事業の目標

精密測定機器の需要増加に対応するため、生産能力拡張に向けて、製造ラインの設備を新規導入・一部増設や老朽化更新を進めていく。主に各工場の切削・研削加工機群からなる機械加工ラインにおいて、従来より省エネかつ生産効率の高い機械加工ラインを導入するとともに、一部工場では再生可能エネルギー由来の電力を導入することで、事業者全体の炭素生産性を92%向上させる。

##### (2) その事業の生産性を相当程度向上させること又はその生産し、若しくは販売する商品若しくは提供する役務に係る新たな需要を相当程度開拓することを示す目標

2022年度より事業適応を開始し、2024年度（目標年度）までに事業者全体の炭素生産性を92%向上することを目標とする。

##### (3) 財務内容の健全性の向上を示す目標

2024年度（計画終了年度）に経常利益の黒字化を達成することを目標とする。

##### (4) 事業適応の類型

エネルギー利用環境負荷低減事業適応

##### (5) 計画の対象となる事業（日本標準産業分類における中分類名称及びその分類コード）

27 業務用機械器具製造業

主として寸法（形状寸法を含む）を精密に測定するための機器又は装置を製造する計画であるため。

##### (6) 事業適応の具体的内容

計画初年度(2022年度)は主に国内の5工場に設備投資を行う。

測器工場はノギス、高知工場はマイクロメータヘッド、清原工場はリニアスケール、川崎

工場は画像測定機、中津川工場はダイヤルゲージの増産に向けて生産性向上とエネルギー消費量の削減を進めていく。

計画2年度(2023年度)は2022年度と同様に、生産能力増強を主な目的として主に国内6工場に設備投資を行う。その中でも高知工場は新工場での生産体制構築のために最も設備導入数が増える予定である。他にも宮崎工場ではゲージブロック、志和工場ではマイクロメータ、MC工場では三次元測定機生産に関わる高生産性かつCO2削減を意識した、炭素生産性を向上させる設備導入を進めていく。

目標年度(2024年度)は2022年度から段階的に導入していく、再生可能エネルギーによって、二酸化炭素排出量を低減できる。特に清原工場では2023年度と2024年度は積極的に再生可能エネルギーの導入を進めるため会社全体の炭素生産性を向上させる。これにより、事業摘要終了後には会社全体の炭素生産性は2021年度比で92%向上を見込んでおり、国内の脱炭素化に貢献する。

(7) 事業適応の開始時期及び終了時期

開始時期 2022年9月

終了時期 2024年3月